

行雲流水

No. 1 6 令和3年4月9日発行

人生は、二度なし

校長 寒河江 正人

桜咲く中、**雪の朝**となった。

「今日の『交通安全教室』は、あるんですか?」「自転車は、持って行くんですか?」
次々に鳴り響く電話。対応する鈴木翔悟さんは、まるで「**千手観音**」のごとし。

自転車小屋では、各学年の職員が総出で協力し合い、「**混乱なきよう**」対応している。
生徒が引いてきた自転車の整理整頓の指示は、円滑で、「**よどみ**」がない。
見事な「**分担とチームワーク**」である。

教職員一人ひとりが「真摯に仕事に向かう姿」が心に刻まれました。
こうした「**働き**」の一つひとつによって「**学校**」は成り立っていると思える瞬間です。

こういう**教師**は、強い。
こういう**教師**をしっかりと支えようとする**学年団**は、強い。
こういう**教師集団**が子どものために力を尽くそうとする**学校**は、強い。

哲学者、^{もりのぶそう}森信三は、こう語っている。

教育とは、「流れる水の上に文字を書くような^{はかな}儚いもの」である。

だが、それを「岸壁に刻み込むような真剣さ」で取り組まなくてはいけない。

「人生は、二度なし。」

教師の道を選んだ私たちも。 私たちと出会った子どもたちにとっても。

ある日の新聞のコラム欄に載っていた男子高校生の言葉。

彼は、壁に貼って、何度も見返しているという。

「辞めたいのなら辞めればいい。ただ、辞めれば夢はもう叶わない。」

「天才でないのなら、「努力の天才」であれ。」

「達成できたら、「世界」が変わる。」

「夢が叶うと、自分にとって何よりも大きな武器になる。」

「人生は、二度なし。」「今日という日は、二度なし。」「一日一生。」なり。